

あとがき

東日本大震災から2年と5ヵ月が経過し、被災地からの情報も少なくなってきましたが、2011年の第6回社会鍼灸学研究会で、可能な限り東日本大震災への鍼灸の関わりを追って行きたいと述べた様に、第7回社会鍼灸学研究会(2012年8月)において、東日本大震災の被災地でボランティア活動をする3氏から、その後の報告をして頂き、その発表内容を本号に寄稿して頂きました。

また、初めての試みですが、本号には、査読を経た原著論文と報告論文を掲載しました。

査読を行って頂いた先生方は日本鍼灸界で重要な活動をなさっている先生方であり、査読の内容も非常に厳しいものがありましたが、昨年、若手研究者の発表会で発表された先生方はその査読結果を踏まえて適切な書き直しを行い、優れた内容の論文にして投稿して頂きました。

原著論文の一つは、一般の方へ鍼灸の印象についてアンケート調査を行ったもので、他の一つは、鍼灸師のわいせつ行為に関するこれまでの新聞記事を分析したものです。

また、報告論文として、一つは、痛みの表現に関する論文です。鍼灸分野で最も多い愁訴でありながら、それを客観的に評価するのが難しいのが痛みです。また、もう一件は、妊婦の治療中に破水した症例の投稿です。これまでに、妊娠中の破水の報告は日本ではありませんし、世界的にもないと思われる非常に貴重な報告です。鍼灸の有害事象については、社会鍼灸学研究会では、これまで取り上げたことはありませんでしたが、今後、この分野の投稿も、期待します。

原著と報告の研究者には、今後、社会鍼灸学の研究をこれまで以上に進められることを願っております。

雑誌『社会鍼灸学研究』は、ISSN(国際標準逐次刊行物番号)を取得し、国会図書館に所蔵され、医学中央雑誌にも所載されております。今後、社会鍼灸学に関係する様々な論文が、本誌に投稿され、多くの方々がこの分野に関心を持って頂けることを期待しております。

(形井秀一)

社会鍼灸学研究 2012 (通巻7号)

発行日 2013年8月1日

編集・発行 社会鍼灸学研究会

〒305-8521 つくば市春日4-12-7

筑波技術大学保健科学部

形井研究室

Tel&Fax. 029-858-9533

e-mail : katai@k.tsukuba-tech.ac.jp

表紙・題字 堀紀子(瑞雪)

筑波大学大学院 人間総合科学研究科

フロンティア医科学専攻 疫学分野
